

白き街角

ジャズ共和国 国歌

あてどない旅の道すから
立ち寄った北の雪降る町で
かすかにもれるお洒落なピアノ
誘われるまま厚いドアを開く
雪は町をモノトーンに変えて
この町にはジャズがとてもよく似合う

外は冷たい冬だから
人の温もりが懐かしい
お酒の酔いも手伝って
私いつしかピアノリストにフォーリンラブ
放たれた音が私を打つの
遠い記憶へと心をつなぐ

揺れるベースに身をゆだねて
この店はまだ眠りそうもない
狭いステージ続いているセッション
とどまることを知らないセッション
こんな素敵な夜を過ごせるなんて
わたし大好きこの白き街角